



世界各国の PT 事情からみる産業理学療法の現状

イギリス

理学療法士の人数	60,801 人
↳人口1万人あたり	9.03 人
教育課程	大学（3年）
公的医療保険	全国民
開業権	あり
理学療法士協会創設	1894 年

<産業理学療法の現状>

産業理学療法協会（ACPOHE）が 1947 年に創設、様々な研修プログラムを提供。PT の産業保健における費用対効果を示し、国営病院の産業保健チームに参入。筋骨格系への対応の他、復職支援や健康増進プログラム等に関与。

アメリカ合衆国

理学療法士の人数	225,350 人
↳人口1万人あたり	6.79 人
教育課程	大学院（3年）
公的医療保険	受給条件あり
開業権	あり
理学療法士協会創設	1921 年

<産業理学療法の現状>

産業保健に特化した PT クリニックもあり専門性が高い。クリニカルガイダンス「Clinical Guidance to Optimize Work Participation After Injury or Illness」が PT 協会により発行。

スウェーデン

理学療法士の人数	17,210 人
↳人口1万人あたり	16.52 人
教育課程	大学（3年）
公的医療保険	全国民
開業権	あり
理学療法士協会創設	1943 年

<産業理学療法の現状>

人間工学的なアプローチだけではなく、精神疾患に対応する心理社会的チームの一員として身体意識や自己管理能力の向上にも貢献。

オーストラリア

理学療法士の人数	37,414 人
↳人口1万人あたり	14.54 人
教育課程	大学（4年）
公的医療保険	全国民
開業権	あり
理学療法士協会創設	1906 年

<産業理学療法の現状>

1960 年代に産業保健に PT が参入、1970 年代には人間工学的視点での治療・予防目的で企業に直接雇用されるようになった。1987 年には PT 協会内の人間工学・労働衛生サブグループ会員が 300 人となった。



日本の産業理学療法の現状・・・

理学療法士の人数	171,471 人
↳人口1万人あたり	13.64 人
教育課程	大学（4年）または専門学校（3年）
公的医療保険	全国民
開業権	なし
理学療法士協会創設	1966 年

<産業理学療法の現状>

労働安全衛生法の中で理学療法士は明記されていない。2023 年「第 14 次労働災害防止計画」について答申を行い、労働者の身体機能維持改善等を目的に「理学療法士等を活用」することが明記された。

PT 協会による「職場における腰痛予防宣言」では PT 協会会員による所属施設への腰痛予防の取り組みへの啓発事業を開始、2020～2022 年で 130 施設で展開、職場での腰痛予防対策を広めるきっかけとなったケースもみられた。

Point

各国の産業理学療法で共通して重要視している点

- ・エビデンスの提唱
- ・職場での実践的なアプローチ

2022 年 10 月、日本産業理学療法研究会内に国際委員会が設置されました。

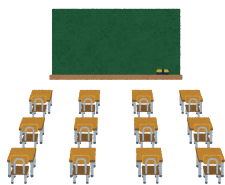
各国の産業理学療法の形は国・制度・文化などの影響を受けており、独自性もありますが共通性もあります。次号も世界の産業理学療法に関する内容で発行予定です。世界の現状から、日本の産業理学療法の将来を一緒に考えてみませんか？



日本と世界



学校やオフィスの環境の違い 座位姿勢と腰痛の関係性



日本

学校



オランダ

日本は「規律」オランダは「多様性」

小学校の環境で違いをみることができる。
欧州には「オルタナティブ」という文化があり
世界にはさまざまな文化や特徴がある。
日本では小学校の机と椅子が並んでいたように
「規律」が心地よいのかもしれない。



日本

オフィス



アメリカ合衆国

「自由度（選択制）」の違い

オフィスの環境や働き方も違う。
長時間座位の悪影響が問題視されると、日本
では「椅子の形状や座位姿勢の工夫」アメリカ
合衆国では「立位の導入」が検討される。
各国文化の影響があるのかもしれない。



座位姿勢と腰痛の関係性

■ 海外の報告

- ・長時間の座位保持は、腰椎彎曲の減少*1 や慢性的な筋活動低下*2、筋疲労を招きやすいとの報告がある。
- ・在宅ワークなど、生活用機器（ダイニングテーブル等）を中心とした環境での長時間座位作業は筋骨格系の疼痛を誘発しやすい*3。
- ・40 分間のノート PC 作業後の筋疲労を確認した報告では、座位の姿勢に関わらず、背筋群、腹筋群共に筋疲労を認めた*4。

いずれも腰痛との
関係性は高い。

■ 厚生労働省が推奨する情報機器作業時の環境設定

- ・作業姿勢は、椅子に深く腰かけ、背は背もたれに、足底は床に接した姿勢で、床面が滑りにくいものが望ましい*5。



- 【出典】 1) Le P., Marras W.S. Evaluating the low back biomechanics of three different office workstations: Seated, standing, and perching.
2) Morl F., Bradl I. Lumbar posture and muscular activity while sitting during office work.
3) Moretti A., Menna F., Aulicino M., Paoletta M., Liguori S., Iolascon G. Characterization of Home Working Population during COVID-19 Emergency: A Cross-Sectional Analysis.
4) Jia B., Nussbaum M.A. Influences of continuous sitting and psychosocial stress on low back kinematics, kinetics, discomfort, and localized muscle fatigue during unsupported sitting activities.
5) 厚生労働省 情報機器作業における労働衛生管理のためのガイドライン